

東日本大震災被災地応援実行委員会より

轍わだち

2014. 6. 11 NO. 56

# 6808この数は何？

「ふるさと喪失」この言葉は、原発事故特有の被害について物語る言葉です。

今、東京電力福島第一原発事故の避難者が、東電と、国を相手に損害賠償を求める訴訟を起こしています。現在避難中の福島県民は、13万3000人です。「古里を追われた者にしか分からない悲しみや苦しみがある。それを分かろうとしない国や東電に司法の判断を仰ぐ事を決めた。」と原告の人々は言います。その数は日毎増え続けています。6808は原告総数なのです。この数は米軍基地の騒音被害を訴えた嘉手納基地訴訟、厚木基地訴訟に次ぐ規模に膨らんでいます。

## 私は大きくなったらお母さんになれますか

福島を風化させないために、写真を撮り続け、全国各地で写真展を開催している写真家に、避難中の8才の女の子が問い合わせた言葉の重さを私たちは、人ごととして、とらえてはならないと思います。そして、家族の歴史や古里の文化を捨てて逃げなくてはならなかった人たちを忘れてはならないと思います。



中間テストの最終日、実行委員会では2号館の芝生横の花壇にひまわりの種を植えました。この種は、初代実行委員長西紋さんのお父さんが参加されている被災地支援プロジェクトからおそらく分けして頂いたものです。宮城県気仙沼市の鹿折地区で育ったひまわりの種です。現在、ひまわりは大きいもので20センチほどの高さに育っています。「被災地を忘れない。」シンボルのひまわりが花を咲かせる日が楽しみです。

## ひまわりの苗をお分けします！

学校の花壇だけでは狭いので、今後育ってくれるお家を探しています。ひまわりの引越し先になってくれるという人は、実行委員まで声をかけて下さい。

## 優しい気持ちの11円募金ありがとうございます

先月から始めた毎月11日に被災地へ応援の気持ちを込めて行う「11円募金」は、5月分は計2,899円でした。  
体育祭での「11円募金」は5,122円でした。  
引き続きご協力お願いします。

なお、轍の読者であるOGの方が、「11円募金」として、早速31,100円の募金を持参して下さいました。感謝感激です。



# リレートーク

今月は平安女学院大学付属幼稚園園長磯野真紀子先生です。

2011年3月11日のテレビでの映像は、今でも鮮明に蘇ります。その時には、何かできることはないか、どうすればいいのだろうという焦りにも似た感覚を覚えたことを思い出します。

「どうしても、現地に行きたい」と思うものなかなか実行できなかったのですが、ついに、今年の連休に行くことができました。

先月のリレートークで、今井先生がたどられたコースとは全く逆コース。

気仙沼の駅にて

この道路は、元線路。



復興はまだま



盛で今井先生とばったり！同じ時間に同じ場所に。それも東北で…こんな偶然があるのですね。嬉しい出会いでした。

とにかく、電車やバスで走っても走っても、海岸沿いは津波の爪痕が続きます。地図で見て漠然と広い範囲だと思っていたのですが、実際に走ってみると、その距離に本当に驚きます。今回行ったところは一部です。胸が押しつぶされそうになりました。無口になりました。涙が溢れました。

いろいろ感じたことはあったのですが、先月号と重なりますので、旅行記はこれくらいにします。

全国の方が集まる会議で

5月の会議で東北教区の先生が「旧約聖書の、ノアの箱舟の話が、私には語れなくなりました。」と語られました。そして「まだ復興を目指せる地域はなんとか明るくなれる。でも、福島は悲惨だ。」ともおっしゃいました。どちらの言葉も参加者の胸に重く響きました。

福島県の保育園の先生が「除染した公園に散歩に行くのですが、線量計は手放せません。落ちているどんぐりや松ぼっくりも拾うことができなくて…」と涙を流しながら話しておられました。

附属幼稚園では、この秋、松ぼっくりやどんぐりを、福島の子どもたちに送ろうと、話し合っています。

